

# 平安時代 前期・中期

(財) 京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

10年間続いた長岡京から、延暦13年(794)に山背国葛野郡の地へ都が移されることになり、平安京が造営されました。この後、山城國と国名が変わりました。

平安時代は、大きく三つに分けられます。奈良時代から続く律令制度のなかで、天皇が中心に政治を行なった9世紀末までを前期、貴族が力をもつ摂関時代の11世紀中頃までを中期、上皇が実権を握る院政時代を後期とします。ここでは前期と中期の平安京の様子をみてみましょう。

**平安京の造営** 平安京の発掘調査は昭和40年代から本格的に始まり、道路・築堤・側溝を各所で検出しました。その結果、それまでは地上でしか復元できなかつた条坊制が、どのように施工されたかが明らかになり『延喜式』にみられる数値にきわめて近いことがわかりました。

**平安京の宅地** 条坊制によって区画された宅地内の様子もわかり



写真1 右京六条一坊五町の復元模型（南から）と邸宅跡（西から）

始めています。左京城では遺跡が重複していますが、右京城では造営当初の良好な遺跡がみられます。写真1の右京六条一坊五町の宅地は平安時代前期の貴族のすまいです。主要建物である正殿を中心に対屋が配置された寝殿造の初期

の段階にあたる邸宅と考えられます。ここからは邸宅内で使われた土器や、まじないに使われた土馬が出土しました。この建物の復元模型は出土遺物と共に、下京区五条通七本松下のリサーチパーク中庭の展示室で見学できます。

## 略年表

長岡京時代	平安時代前期	平安時代中期	後期
794 810 823 平安遷都 藤原皇子の死 空海、教土源因等「東寺」を認める	866 876 888 庄内門の火 總慶寺を大曾寺とす 仁和寺を堂宇供養 仁和寺を定領寺とする	913 934 935 慈福寺を定領寺とする 平若門の乱 法華寺を定領寺とする 951 960 慈福寺と五重塔完成 内裏：初めての焼亡	998 1019 1021 円融寺の落成供養 唐風施設の高麗院完成 春日丸殿、法成寺の建立に着手
			1068 後三条天皇即位
			高麗院



平安宮



東寺



仁和寺



高麗院

**平安宮** 平安宮では大規模な調査はできませんが、大極殿跡をはじめとして成果があがっています。

**朝堂院・豐楽院の建物基壇、内裏回廊の雨落溝、周囲の官衙（役所）地域では建物跡や築地・側溝が見つかっており、平安宮の様子が明らかになってきました。また、役所で用いられた硯や、かな文字を墨書きした土器、中国から輸入された陶磁器などの興味深い遺物もたくさん出土しています。**

**京内の寺院** 平安京内には東寺と西寺の二つに限って建立が許されました。東寺は今でも大伽藍を有し、多くの信仰を集めています。西寺は平安時代中期に火災にあって以後復興されず、消滅してしまいましたが、現在、西寺公園内に講堂基壇が保存されています。発掘調査の結果、両寺は部分的な違いはあるものの、朱雀大路をはさんでほぼ対称的に伽藍が造営されていたことがわかりました。また、東寺・西寺では綠釉瓦が出土しましたが、平安京内で綠釉瓦が用いられた建物は、大極殿・豊楽殿・神泉苑乾闥閣とともに重要建物だけ

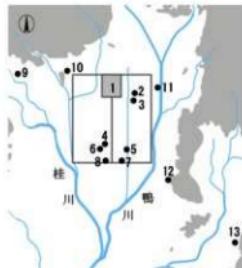
です。このことによっても東寺・西寺が特別な寺であったことがわかります。

**京外の寺院** 平安京外では、前期の寺院は京城から外れた所に建てられましたが、中期になると、京外でも比較的近いところに造られるようになりました。天皇によって建立された御願寺には、大覺寺、醍醐寺、仁和寺とその周辺の四円寺などがあり、貴族による寺院には法性寺や法成寺などが

あります。これらの寺院はそれぞれ発掘調査を実施し、遺構・遺物を検出しています。その中で、仁和寺八角円堂と法成寺金堂には綠釉瓦が用いられ、注目されます。

**市** 平安京には官営の市場として東市と西市が設けられています。発掘調査では西市の方に成果がみられます。出土遺物には、市で取り扱われた物資の名前を書いた荷札木簡や、曲げ物・物差し・木沓などの木製品、錢貨、土器などの豊富な遺物がみられます。

**中期の邸宅** この頃になると、池のある庭園をもった邸宅が造られるようになります。高陽院跡、



遺跡位置図 1 平安宮跡 2 高陽院跡 3 堀河院跡 4 右京六条一坊五町 5 東市跡 6 西市跡 7 東寺 8 西寺跡 9 大覚寺 10 仁和寺 11 四円寺跡 12 法成寺跡 13 醍醐寺

堀河院跡で調査を実施しました。検出した遺構はどちらも庭園で、土塀・流組・石組が見つかっています。しかし、建物遺構はいまだに明確にできず、絵巻物に描かれたような寝殿造を検出するにはいたっていません。

平安時代前期から中期にかけて、中国の影響が大きかった建物や生活様式は日本の風土に合うように変遷します。瓦の変遷をみて年表のようにしたいに簡素になつていきます。やがて、寝殿造や十二単、かな文字に代表される繊細でみやびな、貴族による王朝文化の華が開きます。（前田 義明）



写真2 平安京出土の遺物 左上より硯（平安宮中央省跡ほか）、錢貨（西市跡）、鬼瓦（平安宮豊樂殿跡）、墨書き土器（平安宮左兵衛府跡）、綠釉陶器（西市跡ほか）、木沓（西市跡）